

授業、部活、文化祭、修学旅行…
すべてが新しい学力につながる！

高1・2・3年

子どもはどう育つ？ 保護者の役割は？

高校生活のさまざまな場面を通じて成長しながら
進路をつかむ子どもたちに、保護者はどんな支援ができるでしょうか。
学年別に学校行事と進路行事のモデルスケジュールを作成し、
子どもの成長ポイントと保護者の関わり方をまとめてみました。

取材・文／藤崎雅子 イラスト／加納徳博

次ページから一挙公開！ 「学校行事モデルスケジュール」の見方

【CHECK 1】

さまざまな活動で 新学力UP

保護者には見えにくい高校生活。モデルスケジュールでさまざまな成長ポイントのご確認を。特に、学力の3要素(※)の育成が期待される行事については、【新学力UPの視点】を解説しています。

【CHECK 2】

進路選択の 重要行事は1年生から

高校卒業後の進路に関わる重要な選択の機会が、早くも1年生でやってくることを知っていますか？ 保護者も進路決定の流れと注意点をあわせて、子どもの主体的な選択を促していきましょう。

【CHECK 3】

保護者の出番となる タイミング

子どもが高校生になると、どこまで手や口を出してよいかわかりにくさを感じる保護者は多いもの。保護者の出番となるタイミングを把握して、適切な距離感で子どもをサポートしていきたいですね。

※学力の3要素＝知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性（詳細P.5）

【アドバイザー】



滋賀県立草津東高校 進路指導課長
堀 浩司先生

教員歴35年。「行き先指導ではなく生き方指導」「家から近い大学ではなく夢から近い大学」などを大切にした、3年間の体系的な進路指導を実践している。

1
年生

環境変化に少しずつ慣れて生活リズムを形成。 卒業後の進路についても考え始める

主な学校行事

進路選択に関わる行事

保護者の参加行事と関わり方

● 入学式

● 新入生オリエンテーション

● 授業スタート

● 部活動スタート

● 中間テスト

● 個人面談

学校行事紹介集会やクラス対抗レクリエーション、勉強の仕方レクチャーなどが実施される。学校・クラスへの帰属意識や学校生活への意欲を高める。

6月

● 期末テスト

● 模試・外部テスト

生徒同士で対話したりグループワークを行ったりする、アクティブ・ラーニング型の授業が増えている。

【新学力UPの視点】

自ら発信することが求められるため、従来の座学型授業以上に主体的に学ぶ姿勢、深く考える力が養われる。

7月

● 期末テスト

● 模試・外部テスト

中学時代よりも活動内容が生徒中心に。上級生が練習メニューやスケジュールを組む部活も多い。

【新学力UPの視点】

チーム全体のため自分たちで考え工夫し後輩に働きかける先輩たちの姿から、主体性、判断力、表現力を学ぶ。

8月

● 夏期講習

● 校外プログラム

生徒の実行委員を中心として企画・運営。クラスや部活動のチームで力を合わせ、出し物を製作したり、競技に取り組んだりする。春に開催し、早い段階での仲間づくりに役立てる学校も。

【新学力UPの視点】

初的大型行事。意見がまとまらない、方法が見つからないなどさまざまな壁を仲間とともに乗り越えていく経験で、協働力、思考力、判断力が養われる。

9月

● 文化祭

● 体育祭



● オープンキャンパス・公開講座参加

● 仕事・学問調べ

夏休みを中心に多くの大学・専門学校でオープンキャンパスや高校生向け公開講座が開催されるので、各自で興味のあるイベントに参加する。学校によっては、参加数目標を設定したり、参加レポートを夏休みの課題にすることで、参加を奨励している。

● 文理選択希望調査

次年度の文理コースや履修科目について、現時点の希望を提出。秋に実施される再調査で、最終選択をする。だからといって「とりあえず」という気持ちで書くのではなく、興味分野や希望進路との関連をしっかりと検討したうえで提出する。

● 適性診断
● 進路ガイダンス

個人の性格や興味・志向をもとに向いている学問や職業適性を診断する、外部テストを実施する学校は多い。結果が出たあと、適性があると診断された学問や仕事の中身について調べたり、自分の希望とすり合わせたりすることが大切。

● 保護者会

学年・クラスの1年間の指導方針について説明される。学校の雰囲気に触れておくことにも意味がある。

● 保護者面談

高校生活の立ち上がり状況や、初めての成績通知をふまえた学習面の課題について共有する。

入試改革の状況や、3年間の進路決定までの流れなどについて情報提供される。



保護者会はなるべく参加

1年生保護者に合わせた内容が組まれるのなるべく参加を。今年度の1年生は大学入学共通テストを受験することになるので、最新動向の把握が大切です。【→参考p.4】



初テスト後は前向きな声かけを

初めてのテストの難易度や結果にショックを受ける子どもは少なくありません。似た学力の生徒の集まりのため、中学時代と異なる成績順位は当然。本人が前向きになれるような声かけを。



生活リズムづくりに協力

夕食・勉強開始・就寝の時間を一定にする「3点固定」を心掛けると、帰宅後の生活リズムを整えやすくなります。夕食時間については保護者の協力も必要でしょう。

モードチェンジ

1学期を終え、生活リズムや体づくりが整う時期。子どもが自分で考え判断して行動できるよう、少しずつ手放しを。

生活リズムづくりモード

1学期中は新生活に慣れるのを焦らず支援

晴れて高校生となったわが子の姿に、頼もしさを感じている保護者は多いでしょう。しかし、心身ともに高校生らしくなるまでには、少し時間がかかります。入学直後は通学方法や通学時間の変化、人間関係づくり、新しい授業への対応などで毎日ヘトヘトに。帰宅したら何もせずに寝てばかりという子どもも珍しくありません。「やつていけるのかと心配もあるでしょうが、1学期いっぱいには、部活動を辞めさせるようなことはせず、食事面のサポートぐらいにとどめて見守ってあげてください。夏休み明けはだいぶ体力もつき、生活リズムが整ってくるでしょう」(堀先生)

1年秋は学力が大きく動く時期。1学期は勉強面がおそろきになつてきた子どもでも、この時期に自宅学習を含めてしっかりした生活習慣ができることで、大きく成績を伸ばす例は多いといえます。

進路は絞り込むより可能性を広げる方向で

入学したばかりの1年生には、

卒業生に聞きました／ 高校時代、 ジャンプアップした きっかけは？

先生のおかげでジャンプ

●自分ではできないと思い込み、何に対してもやる気が出なかったが、担任がうまく私の個性や考え方を形に変える手伝いをしてくれたため自信がたった。(大学生／情報学部)

●何も考えずなんとなく偏差値が高いからという理由で高校を決めて入り、最初はまったくやる気が起きなかった。3年生の時、担任の先生との二者面談の時に「そんなじゃダメだぞ」と言われて目が覚めた。(大学生／経営経済学部)

いろんな経験でジャンプ

●今までリーダー的な立場は苦手で避けてきたが、思い切ってやってみたかった演劇コンクールのチーフになり、やり遂げたことが転機となった。(大学生／国際教養学部)

●サイエンスキャンプや大学の理系教育プログラムに参加し、意識の高い人々と出会って、彼らの姿を目指すようになった。(大学生／農学部)

目標ができてジャンプ

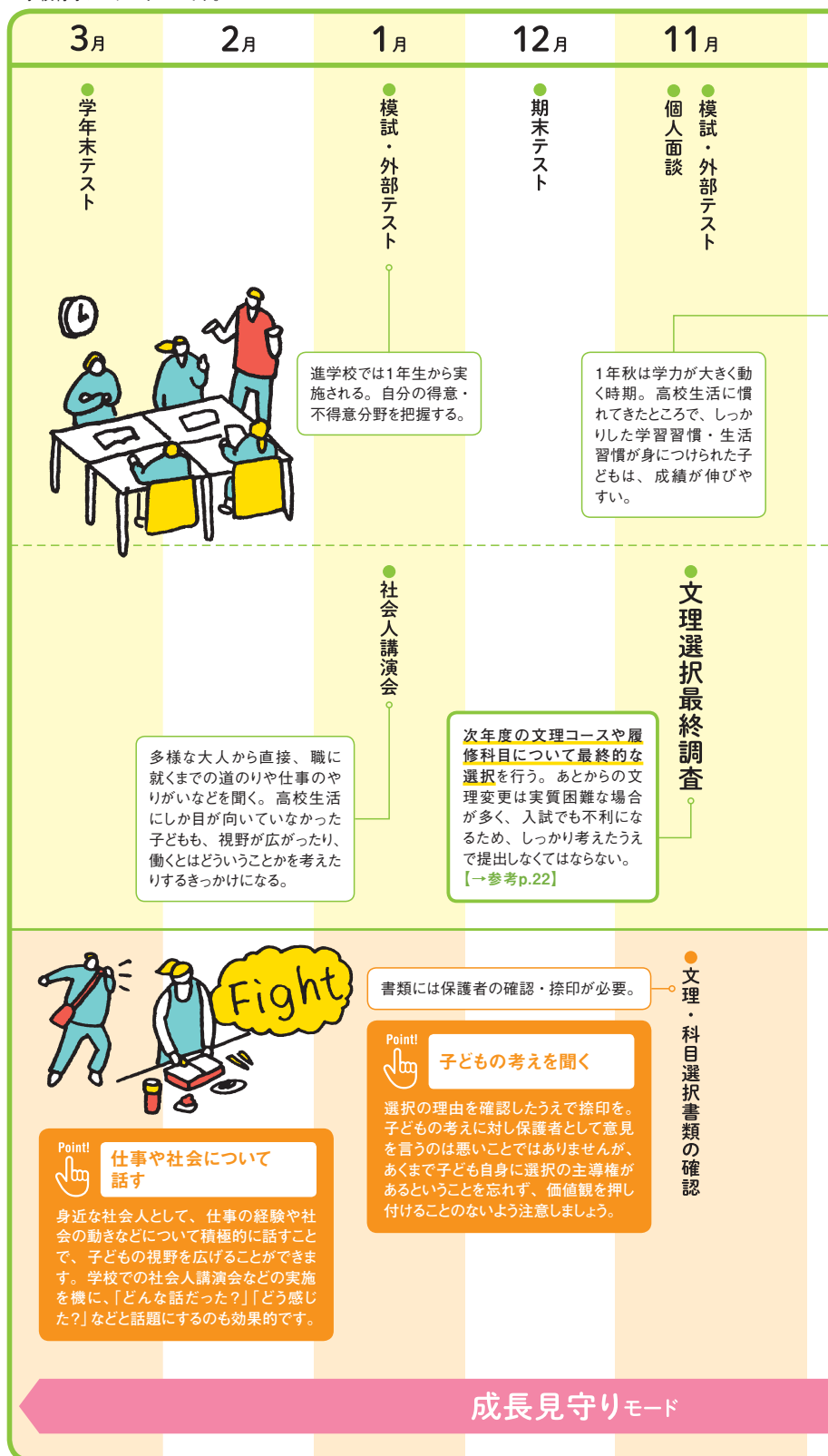
●成績が下から数えるくらいだったが、2年になって行きたい大学が決まったとき、その大学に入るにはかなりの勉強をしないといけないとわかり、がんばるようになった。(大学生／栄養学科)

●自分のレベルより高めの資格の勉強ができるクラスに選ばれ、この資格は難しいけど絶対に取りたいと思って勉強した。そこから他の科目もがんばるようになった。(専門学校生／情報処理科)

成功・失敗体験からジャンプ

●試験で赤点を取り、このままでは大学に行けなくなると思って勉強するようになった。(大学生／看護学部)

●中学の時は下の方の成績だったが、高校に入學すると同じようなレベルの人が集まるから、やればやるだけ結果につながった。それからは、行事なども積極的に参加して最高の高校生活になった。(専門学校生／美容学科)



卒業後の進路の話は遠い先のことに聞こえるでしょう。しかし、進路は「3年生になって決める」のではなく「3年かかって決める」もの。多くの高校では、春から適性診断や仕事・学問調べなどを通じて進路について考えさせ、秋には文理選択の希望調査を行います。文系に進むと理系学部受験に必要な科目が履修できない場合があるなど、文理選択は後戻りが難しい大事な分岐点です。保護者も子どもの考えをしっかりと確認しておくことが大切です。

こうして早くも大きな選択を迫られますが、職業や学問に関する高校1年生の知識は豊富とはいえません。資格系の職業を目標にあげる子どものなかには、就職の有利さなどで短絡的に考えている場合もあります。

「1年生は進路を絞り込むより、可能性を広げたい時期。子どもの興味の周辺にある多様な仕事について家庭で話すなど、子どもの視野を広げるよう意識するとよいでしょう」(同)

また、今年度の高校1年生は、大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストで選考されることとなります。学校から提供される大学入試情報などに、保護者もアンテナを張っておくと安心です。

2
年生

学校行事や部活動などに全力投球することで 幅広い力を身につけ飛躍的に成長

主な学校行事

進路選択に関わる行事

保護者の参加行事と関わり方

4月

●授業スタート

文理分かれての授業となり、より深い学びに取り組む。生徒同士での対話やグループワークを行うアクティブ・ラーニング型の授業では、より積極的な姿勢が求められる。

【新学力UPの視点】

授業中に自ら発信することも多いため、従来の座学型授業以上に主体的に学ぶ姿勢、深く考える力が養われる。

5月

●授業公開
●中間テスト
●個人面談

●部活動の代替わり

3年生が引退し、2年生を中心とした体制へ。下級生にも心を配り、部を引っ張っていく立場になる。

【新学力UPの視点】

リーダーシップを発揮し、困難な場面も仲間と乗り越える経験を積むことで、技術力以外にも多様な力が育まれる。

6月

●期末テスト
●模試・外部テスト

受験時に志望校を記入するようになる。学校について調べたり考えたりするきっかけになる。

【新学力UPの視点】

クラスや部などのチームで力を合わせ、想定外の事態にも対処するなかで、協働する力や思考力、判断力が鍛えられる。

8月

●夏期講習
●校外プログラム

1年生での成功・失敗経験をもとに、さらにレベルアップした内容を目指して取り組む。春に開催し、クラスづくりに役立てる学校もある。

【新学力UPの視点】

クラスや部などのチームで力を合わせ、想定外の事態にも対処するなかで、協働する力や思考力、判断力が鍛えられる。

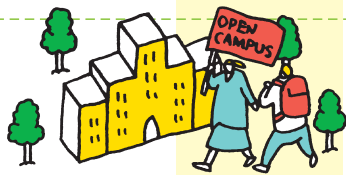
9月

●文化祭
●体育祭

10月

●中間テスト
●修学旅行

この頃が高校3年間の折り返し地点。気を引き締め直す機会とする。



オープンキャンパス・公開講座参加

夏休みを中心に多くの大学や専門学校でオープンキャンパスや高校生向け体験講座が開催されるので、各自で申し込んで参加する。3年生は受験勉強で忙しくなるので、興味ある学校は2年生のうちにひととおり訪問しておく子どもが多い。定員制で事前予約が必要な場合もあるので、早めのチェックが必要。

三者面談

進路に関連する探究学習を数カ月かけて行う学校も。例えば、各自でテーマを設定して大学や企業、地域に出て情報収集し、ポスターレポートにまとめて発表するなど。

【新学力UPの視点】

自ら設定したテーマを深めていく過程で主体性や思考力が養われ、情報を整理して表現する力も育まれる。

進路に関する課題研究

大学教員を招いて模擬授業を実施する学校も。大学の学問・研究の面白さや奥深さを体験する。

大学教員の出張講義

進路ガイダンス

進路決定に向けてどう学習を進めるかや、学部・学科の選び方などについて指導される。

三者面談

進路についての話題がメイン。どんな方向性を考えているか、そのためにどんな準備をしていくとよいかが話し合う。

Point!

オープンキャンパスに同行

子どもが興味をもっている学校へは足を運び、保護者目線でもチェックをしておくと、その後、子どもの相談に乗りやすくなります。ただし、保護者の同行を嫌がる場合は、無理強い不要。

保護者会

学年・クラスの1年間の指導方針についての説明があり、進路に関する情報提供も行われる。

Point!

子どものがんばりを見学

授業公開や文化祭・体育祭、部活動の試合や発表会などは、積極的に見に行くのがオススメ。家庭では見られない子どものがんばりが見られ、成長を実感できるでしょう。

保護者向け進路説明会

保護者の時代から様変わりしている入試の状況について解説される。

Point!

入試の基礎知識をもつ

最近の入試の傾向についてある程度知っておくと、子どもとの進路の会話がスムーズになるでしょう。ただし、保護者主導で情報収集したり判断したりするのは避け、子どもの考え・行動を見守りたいものです。

モード
チェンジ

高校生活後半に突入し、学校行事や部活動に打ち込みながらも、進路選択や受験勉強への意識を強めていく時期です。メリハリをつけて生活できるよう、時に声かけていきましょう。

成長見守りモード

一生懸命やる楽しさを知ると勉強に対しても前向きに

2年生は中だるみの学年と言われることもありますが、実は最も大きく成長できる1年間です。体育祭や文化祭では、1年生の時の成功・失敗経験を生かして盛り上げに貢献。修学旅行では生徒が企画段階から関わったり、部活動では3年生引退後に後輩をリードしていったりと、活躍の場が多くなります。

そんな生徒主体の活動を通じ、子どもたちは思考力や判断力、協働する力などを育むほか、「何かに一生懸命取り組む楽しさ」を体感するでしょう。この楽しさに目覚めた子どもは、大きく変化するといえます。

「何事にも受け身だった生徒が、1つの行事で大きな充実感をもった経験から、その後の学校行事や部活動、勉強など、あらゆることに能動的な姿勢で臨むようになることも。行事の実行委員や係などの役割は、そんな変化のきっかけをつかむ絶好のチャンス。積極的に挑戦するよう、ぜひ家庭でも後押ししてあげてください」(堀先生)

堀先生に聞きました / 子どもの進路選択、 こんな時どうする？

Case1

ずっと目標にしてきた 進路(仕事・大学・学部)を 諦めると言い出した！

頭ごなしに否定せず、まずは子どもの話に耳を傾けてみましょう。なぜそう考えたのかを聞いてみると、努力してきた限界なのか、安易な方向への逃げなのかが見えてきます。問題は「逃げ」の場合ですが、決して結論を急がずに、もう一度考えるための日にちを取って、何度か話し合いを。保護者は「子どもの一番の味方」であってほしいので、話し合いがこじれそうな時は「先生にも相談してごらん」と学校に振るのも手です。

Case2

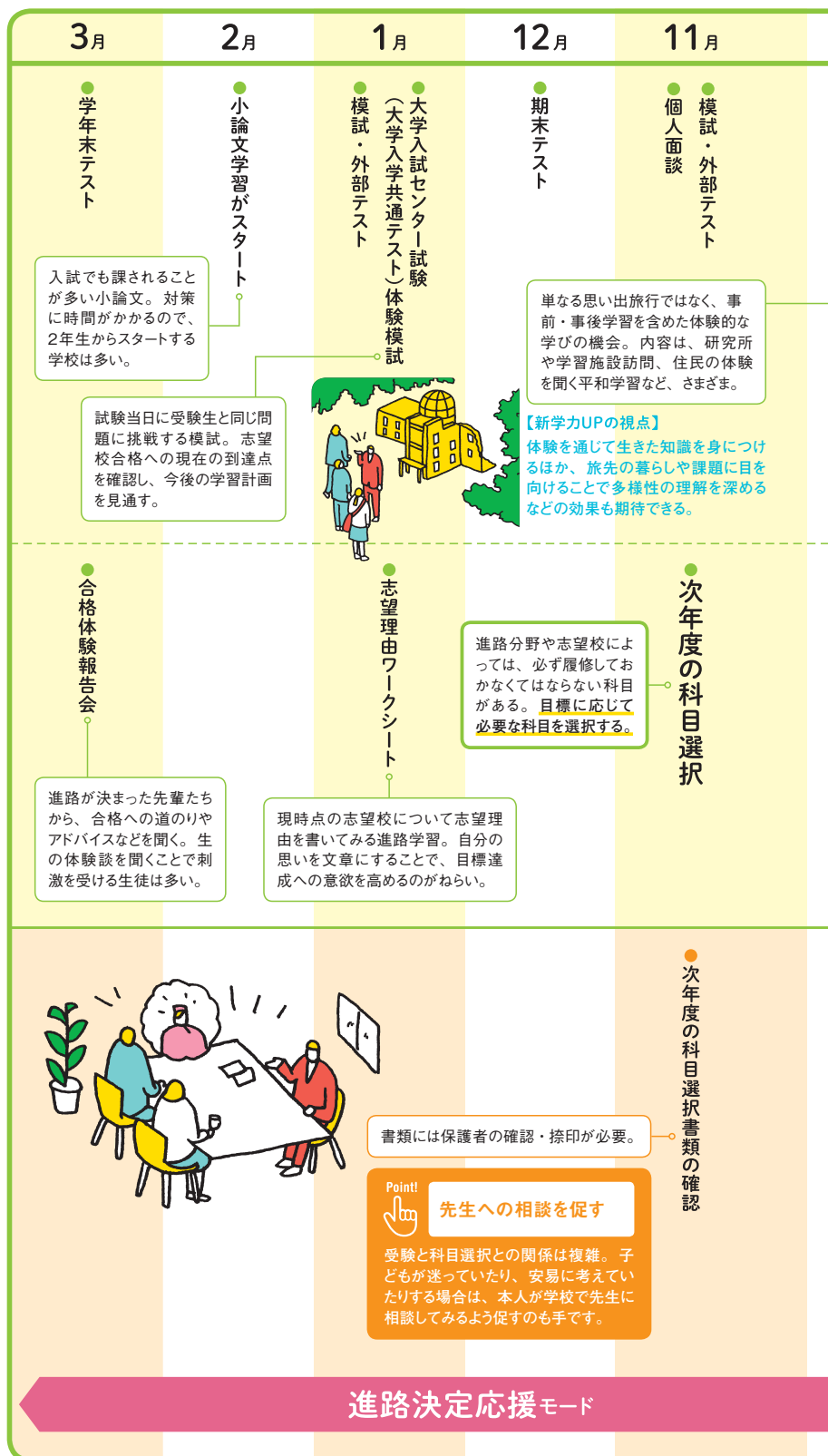
本人の資質・適性から考えて 不向きな進路を目指す と言い出した！

保護者が「向いていない」と指摘するのではなく、「その進路にはどういう力が必要？」「どんな人が向いていると思う？」などの質問を投げかけてみましょう。子どもはそれに答えるために改めて考えたり調べたりするなかで、その進路の一面だけ見ていたことや誤解していたことに自分自身で気づくかもしれません。また、不向きを承知のうえでの挑戦なら、その思いを受け止め、一緒に考えていこうという姿勢を示してあげたいですね。

Case3

「やりたいことがわからない」と いつまでたっても 進路を決められない！

きっかけは小説やテレビドラマでもよいので、興味をもった仕事や生き方について調べてみるよう促してはどうでしょうか。カッコイイと思える大人との出会いや、進学してイキイキと学ぶ先輩の話から、一気に進路のイメージが広がることもあるので、学校の先生に相談して、関連する卒業生を紹介してもらうのも効果的でしょう。また、どうしても専門分野が決めきれないなら、幅広く学べる総合的な学部に進学する道もあります。



(同)

しかし、学校でのがんばりは、家庭での子どもの様子からはわかりにくいもの。たまには授業公開や部活動の大会を覗いてみると、子どもの成長を実感でき、安心して見守れるようになるでしょう。

受験対策が始まるときこそ
目的意識を再確認

2年生の10月頃は、高校生活の折り返し地点。ちょうどこの頃の実施が多い修学旅行が終わると、一気に受験ムードが高まります。さらに、「3年生0学期」と言われる3学期になると、先輩たちが次々と進路を決定していく姿を横目に、受験勉強を始める2年生が増えます。

この時期、志望理由ワークシートなどを活用して、進路に対する自分の気持ちを確認する時間を設ける学校が少なくありません。

「進路決定というきれいな『花』を咲かせるためには、勉強をがんばって『枝』を伸ばすとともに、何のための勉強かという目的意識をしっかりと『根』を張ることが大切です。家庭においても、今やるべき勉強の話だけでなく、『何に関わっていききたいか』『どういう人生を送りたいか』といった長期的な将来の話ができるとういですね」

3
年生

高校生活をやりきったという充実感を原動力に 進路実現に向けて強い気持ちで進んでいく

主な学校行事

進路選択に関わる行事

入試スケジュール

保護者の参加行事と関わり方

●授業スタート

●中間テスト

●個人面談

●模試・外部テスト

3年生になると模試の受験回数が増加。マークシート式、記述式、大学・分野特化型などさまざまな種類の模試があるので、志望に合わせて計画的に受験する。

1・2年の学習を土台に、まずは基礎基本の定着に注力し、秋からの応用力養成につなげる。

6月

●部活動引退

●模試・外部テスト

●期末テスト

●模試・外部テスト

3年生は夏の大会後に引退というケースが多い。これまでの集大成として最後にひとがんびりし、引退後は新しい生活リズムに切り替える。

【新学力UPの視点】

最後まで諦めずに取り組むことで、受験勉強に対する主体的な姿勢にもつながる。

8月

●夏期講習

●模試・外部テスト

高校生活最後の大きな学校行事。仲間と完全燃焼したという達成感・満足感をもって、受験勉強への集中につなげる。学校によっては春に開催し、早期に受験対策に入る。

【新学力UPの視点】

1～2年での経験を生かしてクラスや部などのチームで取り組むことで、協働性や思考力、判断力の成長が実感できる。

●指定校推薦の校内選考

●大学入学共通テスト出願書類提出

大学入学共通テスト出願は高校で取りまとめる。出願書類には受験科目の記入が必要のため、この時点で志望校受験に必要な科目を調べておく必要がある。

●オープンキャンパス・公開講座参加

●三者面談

第一志望合格のための学習到達ラインを確認し、夏休みの学習戦略を立てる。

志望校に足を運び、来年は自分がここで学んでいるイメージをもつことで、モチベーションアップに生かす。

●志望理由書・面接指導

●総合型・学校推薦型選抜ガイダンス

●進路希望調査

総合型・学校推薦型選抜は受験時期が早い。希望者は春から準備を始める。学校では、メリット・デメリットを理解したうえでの選択か、本人の意思を確認してから指導に入る。

●進路ガイダンス
●日本学生支援機構奨学金の予約採用申し込み開始

【→参考p.63】

入試科目等発表

募集要項が出始める

出願開始

エントリー開始

募集要項が出始める

●三者面談

具体的な志望校、受験対策について三者で確認。



「目標に近づくため」の面談にする

夏休みの過ごし方に影響するので、目標を下げるのではなく、目標に近づくための面談にしましょう。志望校のレベルを下げたり受験科目を削ったりといった検討は、秋以降で間に合います。



生活切り替えサポート

部活動引退後は、放課後時間の使い方が変わります。保護者は夕飯の時間を見直すなど、新しい生活リズムづくりに協力を。

●保護者向け進路説明会

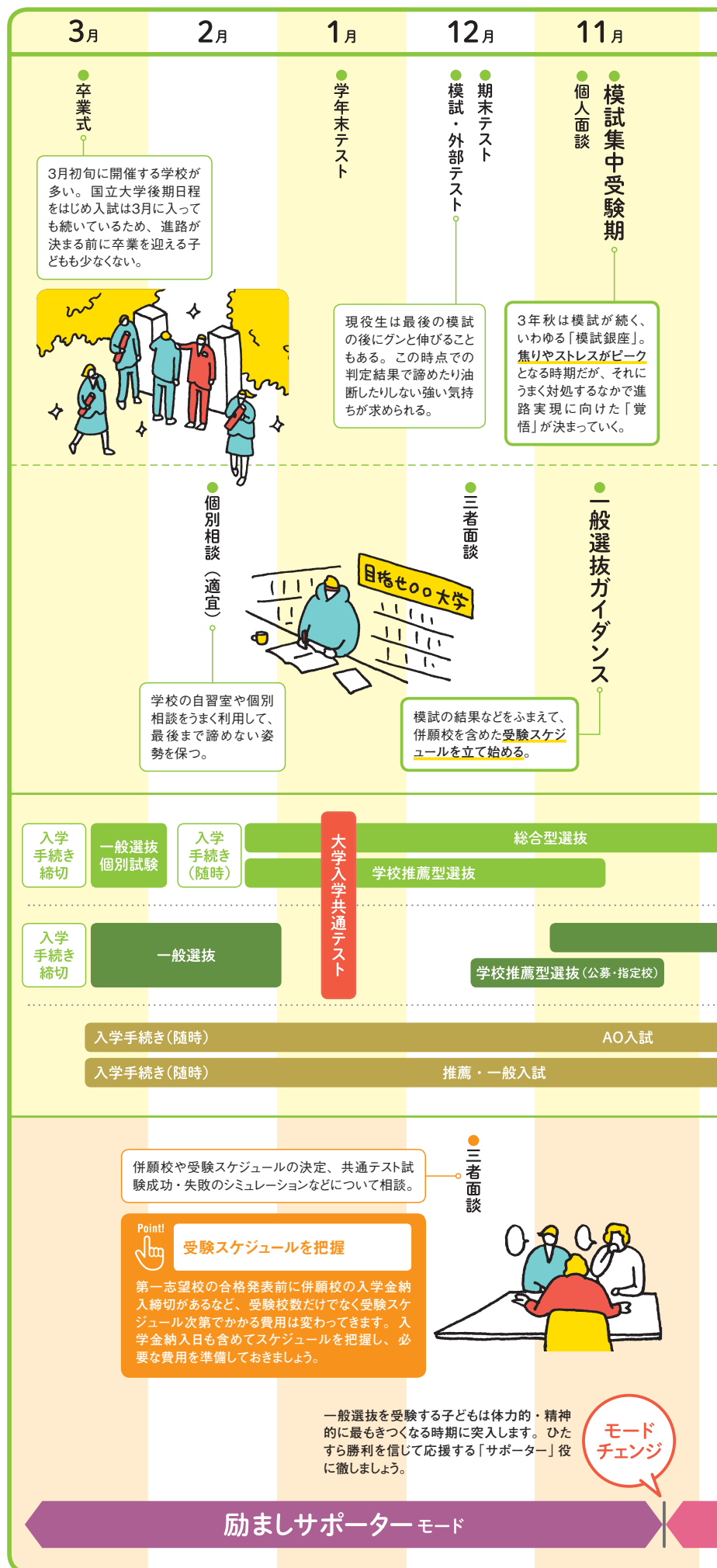
入試スケジュールや家庭でのサポート方法、奨学金などについて説明がある。



進学費用の確認

早めに進学費用を見積もり、子どもの希望とすり合わせておきましょう。奨学金の利用が必要な場合は、準備を始める時期です。

進路決定応援モード



※学校行事はモデルケースです。入試スケジュールは目安なので詳細は各大学・専門学校の発表をご確認ください。

行事や部活に完全燃焼後 切り替えて受験態勢に

最高学年である3年生は、学校行事や部活動で最も輝ける学年です。子どもに希望の進路をつかんでほしい保護者としては、「早く受験勉強に集中して」と急かしたいところですが、学校行事や部活動に一生懸命取り組むことは、必ずしも進路実現の邪魔ではないようです。

「本校の生徒には、学園祭の準備を含めた数日間はいったん勉強のことは忘れて完全燃焼しよう」と言っています。それによって充実感や自信、仲間がいる心強さをもてれば、終了後はすっぱり意識を切り替えて勉強に集中できるからです。何事にも最後まで手を抜かずやりきる子どもなら、受験勉強も粘り強く頑張っていけるでしょう」(堀先生)

ただし、放課後の過ごし方が変

受験直前は精神面が大事な 前向きな言葉かけを

受験生にとって正念場となるのが10〜11月頃。毎週のように模試を受験し、体力的・精神的に最も苦しい時期となります。

「『この判定で大丈夫なの』『ちゃんと勉強しているの』などの言葉は不安や焦りを煽るだけ。たとえ偏差値や合否判定が厳しくても、保護者は『勝利を信じてひたすら応援するサポーター』役に徹して、『大丈夫！』と思い切り励ましてあげてください。この時期を乗りきることができれば、あとはもうやるしかない」と覚悟を決めてラストスパートにかかれるものです」(同)

こうして自分自身で選んだ進路へと一歩を踏み出す子どもたち。高校時代、保護者に見守られてきたという思いは、きっとこれから自分の足で歩んでいく子どもの力になつていくでしょう。